

# 希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 9 月 14 日 発行  
第 20 号  
発行人 校長 鈴木史良

## 「語先後礼」のあいさつとは

—— “あいさつ”には不思議な力がある?! ——

9月の全校朝会では、これまで取り組んできた「あいさつ・へんじ+α」の中で、学校便り第17号「プラス言葉とマイナス言葉」で取り上げたプラス言葉としての“あいさつ”に注目しました。日頃おこなっているあいさつについて、さらに一步意識を高めることをねらいとしました。

「おはようございます」「いってきます」「こんにちは」「おねがいします」「ありがとうございます」「いただきます」「ごちそうさま」「さようなら」「ただいま」「おやすみなさい」……等々、私たちは毎日さまざまな場面であいさつを交わしています。あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本として、身につけるべき大切なものです。しかし、それだけではありません。あいさ

つには不思議な力があると言われます。いったいどのような力があるのでしょうか。

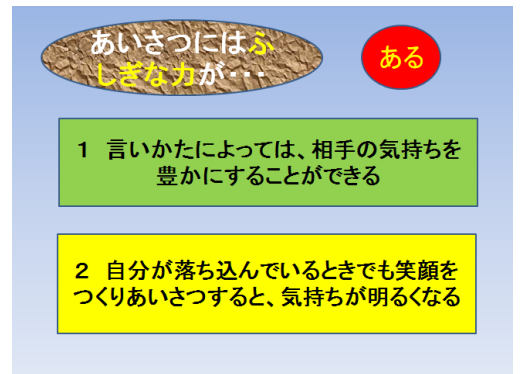
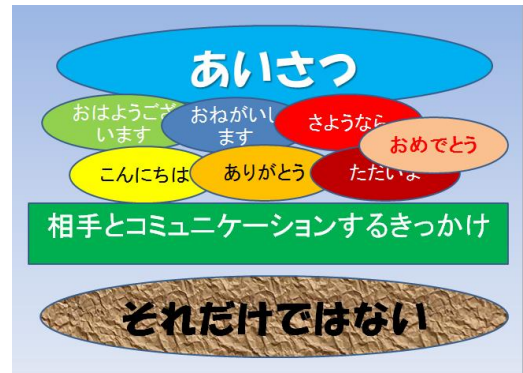
- 1 言い方によっては、相手の気持ちを豊かにすることができる。
- 2 落ち込んでいる時でも、笑顔をつくりあいさつすると自然に気持ちが明るくなる。

一つ目の力ですが、人はあいさつ一つで相手の気持ちを豊かにできるのです。それはとても素晴らしいことです。先生がたも同じです。気持ちのよいあいさつをして、子どもたちを幸せな気持ちにしたいと常に思っています。また逆に、子どもたちから元気のよいあいさつを受けると、その日一日とても幸せな気分でいることができます。

二つ目の力について、人はいつも元気とは限りません。気持ちが落ち込むときだってあります。そのような状態をはやく抜け出したいと思うなら、笑顔であいさつすること。これを続けていると、不思議なことに自分の気持ちも明るくなっていくという事例が数多く報告されています。“あいさつ”がいかに大切で、私たちの生活に必須なものであるかがわかります。

さて、“気持ちを豊かにするあいさつ”についてですが、実は、言葉だけでは不十分だと言われています。言葉+αが必要です。そのαとは何なのでしょう。

メラビアン（メラビアンの法則）の法則によると、人の第一印象はその人の話した言葉が7%、声の大きさや口調が38%、話すときの表情やしぐさが55%だと言われています。“あいさつ”として何を言ったかということだけでなく、“あいさつ”するときの表情や動作が重要だということです。



そこで、本校でおこなわれているあいさつについて振り返ってみました。本校の子どもたちは全校で集まったとき、あるいはクラスでの授業の開始、終了の時どのようなあいさつをしているかという、言葉を発するのと同じをしています。もちろん、そのようなあいさつ・おじぎの仕方もありますが、今回は特に、“語先後礼(ごぜんごれい)”というあいさつ・おじぎの仕方を子どもたちに紹介しました。



うつくしい「おじぎ」の例

“語先後礼”とは、まず相手の目を見てはっきり言葉を伝え、それからおじぎをするという方法です。相手の目を見て言葉を伝えると、おじぎしながら下向きに言葉を言うよりも、より自分の気持ちが相手に伝わりやすいと思いますし、相手を尊重する礼儀正しさが強く印象に残ります。日本で勤務していた中学校では、入・卒業式などの儀式や全校での集会時など、このやり方に統一しました。中学生の職場体験時のあいさつや高校入試の面接試験等にも応用でき、大きな教育効果がありました。

学校というのは、勉強や運動だけでなく、人間として大切なこと、生きていくために大切なこと、集団生活していくのに大切なこと、形にあらわすことのできない絆や思いやりの大切さを学ぶところです。いくら勉強やスポーツができたとしても、人間として“失格”ならば、だれからも認めてもらえません。そうならないように、勉強の基礎、運動の基礎、そして人生の基礎を築いていくことができるよう、子どもたちを導いていきたいと思ひます。

## 後期からの時間割変更について

4月のスタート時、本校に在籍する児童生徒数は19名だったのですが、今月末には14名となります。法人チューリッヒ日本人学校全日制の運営にあたり、看過できない事態となっております。9月11日付レターでご案内いたしましたように、児童生徒減にともなう教科担任の変更をせざるを得ない状況となりました。内容は、現地採用教員の授業時数を減じ、その分を派遣教員が受け持つことになるというお知らせです。子どもたちに過度の影響が出ないよう努めてまいります。皆様の温かいご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

## 外務省「危険情報」表現の変更

今般、文科省を通し、外務省からの「渡航情報の名称改称・危険情報及び感染症危険情報の表現変更」が本校に届きましたので、主たる変更点をお知らせします。

旧・退避を勧告します。	⇒	退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)
渡航は延期してください。		
・渡航の延期をお勧めします。	⇒	渡航は止めてください。(渡航中止勧告)
・渡航の是非を検討してください。	⇒	不要不急の渡航は止めてください。
・十分注意してください。	⇒	同じ